



カメラはだれがいつ作ったの

カメラの始まりは、ピンホールカメラ

カメラの始まりは、紀元前に現れたカメラ・オブスキュラ(ラテン語で暗い部屋という意味)で、暗くした部屋の屋根や、かべなどに小さい穴をあけて、その反対側の白いかべや幕に、外の景色を写すしくみのものです。

紀元前4世紀の、ギリシャの哲学者アリストテレスも、このしくみによって、外の景色を観察したといわれています。

このときのカメラは、レンズのないピンホールカメラ(針穴写真機)です。それに、カメラで写した像を見ることができず、この像を保存しておくことは、できませんでした。このカメラの像は、絵をかくときの参考にする像として、利用されていました。

現在のカメラの先祖は、19世紀の初め

19世紀の初めに、フランスのニエプスが、白っぽい天然アスファルトを、ピューター板(すずと鉛の合金)にぬってカメラに入れ、カメラの像を固定することができました。このとき使ったカメラは、レンズ付きのものです。

ニエプスの死後、フランスのダゲールは、銀メッキをした銅板の上に、カメラの像を定着させることができました。

ニエプスやダゲールが使ったカメラは、現在のカメラの先祖といえます。そして、現在のフィルムを発明したのは、アメリカのイーストマン・コダックです。

(監修・青木 国夫)

